

教育委員会における自己点検及び評価（内部評価）

1. 内部評価結果（総括）

平成21年度の活動を省み、本市教育水準の維持向上に努め、概ねその職責を果たした。

平成23年度においても、これまで指摘されてきた開かれた教育委員会を目指し、様々な改善に取り組んでいるところである。なお、教育委員会の活動の関心がやや学校教育に偏りがちであると感ずるため、今後は社会教育やスポーツ行政等の現場にも足を運び、幅広い視野を持って活動することも心がけたい。

2. 評価シート①：「教育委員会の活動状況」

- ・ 教育委員会の構成については適正である。
- ・ 教育委員会会議の開催状況については、開催数、延べ出席数とも十分であった。
また、前期教育委員会を勉強会と位置づけ、現在の教育委員会の課題からテーマを設定し、事務局を交えた情報交流、意見交換の場を設けているが、このことは任務遂行上、大変有意義であった。事務局との課題共有により、現場で直面する課題について勉強することができ、またその効果により、教育現場の理解が深まり、ひいては教育委員会会議での議論の活発化につながった。
- ・ 教育委員会会議の公開の状況については、教育委員会をより開かれたものとするため、定例教育委員会の記録をネット上で公開したり、委員会の期日予定や議事内容について情報提供に努めた。今後についても、より傍聴しやすい環境づくりに努める必要を感じている。
- ・ 昨年度から行政等が主催する行事について、出席努力・自主判断の区別を行ったところであるが、重要な行事（出席努力）については、約94%の出席であり、十分その職責を果たしている。
ただし、より計画的な活動を展開するためにも、年度末・年度始めなど、機会を見て主催事業・関係団体等の年間行事を把握する必要がある。
- ・ 議会への出席については、教育委員会委員長だけが出席するのではなく、教育委員の全てが出席することで、市民代表としての議員各位の考え方に接することができた。
- ・ 首長との意見交換については、昨年度同様実施することができ、今後も継続していく必要がある。
- ・ 教育委員の自己研鑽については、昨年度から減少となっているが、集中と選択により時宜に即したテーマの研修を行い自己研鑽に努めた。
- ・ 学校訪問の出席率については、一定の増となったことから評価できる。学校訪問は、学校教育の現状（校長の学校経営の説明、授業の様子、施設、地域との連携等）を把握でき、教育委員にとっても学校にとっても刺激となり、大変重要な活動であるという認識である。
- ・ 外部団体との意見交換については、生涯学習の推進の観点から、例えば社会教育委員の会との連携等も視野に入れていく必要を感じている。

3. 評価シート②：「教育委員会が管理・執行する事務」の内部評価

- ・ 昨年度に引き続き、予算編成に教育委員の意見を反映できる時期に会議を設定したことで、首長に対し、教育委員会の意見を伝えることができた。
- ・ 従来の自己点検及び評価の結果により、会議資料の事前送付など様々な改善を図ってきた効果として、活発な議論が展開された。

4. 評価シート③：「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について 別紙のとおり